

## 精神統一に必要な知識

### 5. 生命と霊魂の働き

このように、言ってみれば、余程心静かに人間というものを考えてもらわなければいけない。そこで私は「人間とは何ぞや」ということをよく考えてくださいと言っている。いま生きている、生命を与えられて生きているということですね。

この生命とは何かという疑問が生化学会でも問題になっておりますが、中にはタンパクとか主張している方もあります。とにかくそういうことは別問題としておいて、この生命、これで私たちは生きており、心が働いている。生命を与えられているということ、生命のいわゆる根幹をなしているもの、生命そのもの、この生命を霊魂によって与えられていると考えてもらえばいいのです。

ですから、生まれた時から、霊魂と一緒にいます。それがあつた方の場合には、肉体的なものに現れたり、行動に現れてきて、はじめてその時から霊魂との関係にあるのだという考え方を受け入れられると思います。

皆同じとは言えないのですけれども、とにかく霊魂によって生命を与えられ、霊魂によって与えられたその霊魂の行動が、その人の行動になり、その霊魂の心がそれぞれの心になる。ですから、今度は生命即霊魂である場合もあります。生命ということから、私たちは生命即霊魂という観念をしっかりと持ってもらうなければいけないと思うのです。

病気をすると、すぐ霊魂のことを考えてしまう。そう申しては失礼かもしれませんが、皆さんは霊魂によって生命を与えられている。人間即霊魂ということをおぼれてしまつて、病気、悩み事があつて、初めて霊魂をおぼれておられるのではありませんか。お尋ねしたいわけですね。

さて、それがいろいろと本を読み進められ、こういう話を聞いているうちに、若干の人間即霊魂と私が言うところに近づいてくる。それを固く信じてくださる方ができる。その過程にある方にとっては何かと疑問を生じると思います。なぜならば、私たちは物質的な教育を受けてきましたから、生命というのは何かわからないままに、「生命」、「生命」を言つてきている。唯物論者は生命とは物なりという観念をもつておりますから、その考え方で生命の本質を解明し、ある程度わかつたといつて、「生命素はタンパクなり」と言つている。

この生命こそが心であるということまで極言している人がいる。心でもいいのです。生命即心でもいいのですよ。その心がまとまってある一定の思想を持ったときに、精神というのでしょうか。これが一番必要なことですが、厳密に言うと、そういうことになる。

かつて私どもは、日本精神、大和魂とか、あるいは〇〇精神、□□□精神とい、いろいろな言葉がありました。それはまとまった一つの思想を意味しているのです。したがって、精神というのは、ある一つのまとまったものを持っている。心とはそういうものではない。要するに、心は生命であると言ってよい。その場合には心は霊であると言いましたが、心即霊でいいわけです。

さて、こうなってくると、もう少し心について解明をしなければいけないということになります。まず、ここに人間がいる。その人間、これは心ですね。心で生きている。心で肉体を動かしている。心身相関という言葉がある。肉があつての心ではない。心あつての肉なのです。心の働きから肉体を動かす。これはそもそも人類が生まれて以来のことであつて、霊界の人たちの立場からすると、「人間というのは霊の物質化である」と言っているのです。

心霊現象の中には物質化現象というのがある。それと同じことです。宇宙は霊。さまざまな靈魂に導かれている。霊とは心でありますから、当然宇宙には心がある。ここで宇宙は何のためにあるかを考えたらよい。宇宙の心は、結局はこの宇宙を進化させようとして、まず人間を考えてくれたわけです。生物を考えてくれたわけです。そういうものでこの宇宙を進化させる。

ですから、宇宙のすべてに心があるわけであり、それはある靈魂との関係であるということです。私たちは今日の科学では、山や川というのは物質だといつて、山や川には心がないと考えている。ところが冗談ではない。山や川にも心があるのです。地球自身に心があるのですからね。生き物なのです。この地球には心があればこそ、その状態になるという点を考え、その心に人間担当となる方が人間をつくらなければいけないというところから、物質を応用して人間という形のものをつくった。人間とは霊の物質化なのです。

ですから、やはり心が主であり、即霊が主であるということ、まずここからでも考えてもらわなければいけないのです。これは今日の科学者にそんなことを言ったならば、馬鹿にされるかもしれませんよ。霊の物質化が人間なんだと。けれども、事実なのです。興味ある方は、浅野正恭先生の「古事記生命観」をごらんになると、霊の物質化の意味合いがくわしく出ています。神話の中にあ

るものから説いておられます。ぜひご覧ください。

要するに、人間をつくるというよりは、人間生みの行事として、とにかく真っ暗なところで物質化現象を生起させているのです。真っ暗なところというのは、われわれが霊の物質化をやる実験のとき用いる環境である。そこで物質化をやる。私たちはエクトプラズムによって物質化されておりますから、したがって、私たちにはエクトプラズムがある。このように生きる上におけるエクトプラズムがありますから、それを私たちに適用されているわけです。

人間には、いろいろな進化の過程においてはありますが、使命をもたされております。その上にあつて霊魂というものは孤立したものではない。自然霊といつて孤立したものもありますが、人類としてある年代の間、生を享けさせて、地上の進化のために必要なものを作ろうとした。それがその霊の物質化をやっている人間なのです。その場合のエクトプラズムの量あるいは物質について言っているわけです。今述べている使命の中には、「人間は霊魂なり」、「霊界はあるぞ」、そして同時に、「この地上には心があつて進化している」ということを立証させること、それが霊媒の役目なのです。しかもその霊媒は実験をやりながら、「物も霊によって生きているぞ」、「同時に物質化もあるぞ」というところから、現実に物質化をやってみせる。これがいわゆる物質化霊媒です。彼らのそのエクトプラズムは、われわれとは質がちよつと違うかもしれません。あるいは量においても多いかもしれない。私たちはエクトプラズムで物質化されており、またそのエクトプラズムにも若干違うものがあるということなのですが、とにかく一応エクトプラズムを持っているわけです。

物質化の実験のときに、霊媒の持っているエクトプラズムの量の不足を補うために他の人のエクトプラズムが利用することもある。それをもっと一般的な例で言うならば、幽霊が出現するときに、私たちのエクトプラズムを使ってその姿を見せるでしょう。幽霊を見せるためにエクトプラズムを使っている。その場合に、見せられる方のエクトプラズムを使うわけです。エクトプラズムというのは、「生命の源」みたいなものと考えてもらったならば一番分かりやすいと思います。

昔、私たちはエクトプラズムを「生命素」と訳したことがあつた。幽霊は目撃者のエクトプラズムを借りることが多い。すると、その幽霊を見た人はどうなるか。口が容易には使えないのですよ。幽霊を見た人は口を使えなくなる。歩こうとしても歩けなくなることもありうる。また、身動きすらできないことが

ある。生命素を引き抜かれているのですから。これをあまり強調してこの現象にあまりこだわっていると、夜すっかり静かになって、音が発生するような物理的原因がないはずなのに音がすると、「霊の働きかしら。私も震え出した。引き抜かれたかな」と、そんなことを早合点されても困るのです。いま言っていることは、もっと詳しく申し上げなければいけないと思うのですが、私たちは恐怖感を持たされ、あるいは暗示的なものを持たされやすいようになっている。これらも霊の関係なんですよ。そのようなことになっているのです。

さて、霊の中で、私たちには、一番身近のところで、私たちを守るための守護霊というものが先天的につけられている。さらに守護霊を含む守護霊団がついている。守護霊団は、人によっては、人霊、自然霊、いろいろなものが沢山ついていることがあります。とにかく守護霊団というものが、その人の一部になっている。これ以外に悪い霊もいる。同時にまたどっちにも属さないところの未発達霊、これだけの霊がこの人にプラスして働いているとすると、たとえば、これらを合計して10体の霊となる。するとその合計の10体の霊の心がその人の心となるのです。

心の内容というか、心を分析すると、こうになってしまうのです。霊というものの心、それがお互いの心になっている。それらがバランスをとっているときの状態が、その人の個性ということになり、あるいはその人の人格というものになるのです。

10体という数は別にきまっているわけではないのですが、あまり社会的に多くの交渉を持っておられない方では、背後の数は少ないのですよ。だから、子どもでは少ない。あるいは守護霊だけかもしれない。しかしついでですから申し上げておきますと、親の方から、こういう霊をおくられるということで、可哀想なことに子どもにプラスされる場合がある。したがって、親が写真をもっている子どもに影響しますよ。

子どもは神だという。まあ守護霊を神と考えて、「子どもは神ですよ」と言えないことはないのですが、生まれたときから邪霊や悪霊が、あるいは未発達な霊が憑いている場合がある。子どもの場合に、いわゆる未発達霊が憑いていると、可哀想なことに、それが不具的な、いわゆる身体障害的な子どもに生まれているかもしれない。ですから、守護霊の働きばかりというわけではありません。

心理学は、何かこれに対して説明しようとしてはいるが、何も言えないのです。

しかし、なぜかということとは分からないが、ある意味において、個性というものの、人格というものを認めるような理屈は述べている。

いまの非行少年の場合には、この人間の個性は悪い、人格は劣等であるとしながら、どうするかというと、いわゆる感化院、補導所で感化、補導させようとしている。それを何によってやるか。興味をお持ちの方はご存知でしょうが、あるいは病気なのかもしれない、あるいは環境のせいかもしれないということ、それと同時に人間の生来のものがそもそもいけないと、この 3 つの事ばかりを考えている。

それをどうして直そうとするかということ、補導といういわゆる口先だけで、「こうしよう」、「ああしよう」、「反省しよう」、そればかりで直そうと考えている。利口な、いわゆる不良少年、非行少年は、指導者が口先だけで言っていることに同調するという意識はありませんが、その指導者には口先でうまいことを言い、静かにしておれば必ず認めてくれると見くびっていることが分からない。

非行少年の方が利口なんです。彼らは自分たちの言っていることを真に受けてくれるというので、こいつは成績がいいと言って帰してもらったら、元どおりになってしまいます。なぜそうなるかということには少しも触れていないのです。

非行をやらせているのは、個性・人格を作っている霊の一分子である。守護霊ではない。邪か悪か、未発達な霊魂か、私たちはこのことを考えて、非行が再び繰り返されると、「ははあ、何か好ましくない霊が憑きまどっている。未発達な霊魂だな。何だ。この未発達な霊魂が本人には無意識に非行をやらせている」と看破する。そこで未発達霊を取り除く訳ですよ。わけなくとは申しませんが、それによって非行がどっかへ行ってしまうのです。

非行の例は別として、私たちの周囲にあって酒を飲み、たばこを吸うような場合にも、その方の性格あるいは人格、個性に関係しているのですよ。酒を飲まない人格者というのわかります。いま、仮に 10 体の未発達な霊魂によってつくられている人がいる。こうした例をあげればご理解いただけるでしょう。人間性はよくもなり、悪くもなる。人間とはこういうものだということがお分かりになったと思うのです。

繰り返しますが、その人格なり、個性なりというものは、10 体の霊魂が心をつくるというが、この 10 体のものがバランスよくと言いますか、あるいは一つの中心をつくるとか、心持ちを落ち着けるとかいう状態のとき、そのまとまったときに個性となり、人格となるのです。ところが、ばらばらのときには、心

が乱れるとか、まとまらないとか、あるいは気が落ち着かないとか、あるいは精神を集中させなければならぬときに、このままでは良い考えが浮かばないとか、あるいはどうしてよいか悩むことがあるでしょう。その時の状態、すなわち、心がばらばらの状態にある人のことを、心理学では「異常」と言っている。これに対して、比較的まとまることの多い方を「正常」という。心理学はそのことはわかっているが、異常状態、正常状態と分けて、正常状態というものを主にして人間をとにかく論じている。それが心理学なのです。

ですから、心理学にも異常心理という分け方をしている。この中にいわゆる変態心理という分野があったが、いま深層心理といっている。それをもっと進めると超心理ですね。まあこの心理学という学問も、そういう意味で一部は進歩しているが、その根本にこうした私たちの考え方を採用しないのです。ただただ人間というものは、肉体的なものだということで、現象のみを相手にしている。ところが現象の奥にこういうものがあるわけなのです。要するに、現象の奥がある。

今度は学問というものについてちょっと触れておいたほうが良いと思います。私たちの生活しているところは現象の世界であると言われますが、学問と言えるものは現象ばかりを扱っている。これをいわゆる科学的実験をやって、結論としてある法則が発見されたなどと言っているが、それは半分だけの法則なのです。なぜならば、この現象の奥というものがあるからなのです。したがって、心理学で扱っているのは、奥を扱っているようで、やはり物質や肉体を考えている。ところが、この異常といい、正常というものには、一線を画さなければならぬ。一線というのは何かというと、これはこの地上のいわゆる物質の世界の範疇にあるものです。私たちが対象としている奥のものとは、霊界と言ってよい「超物質」とか、あるいは「超」という名前をつけなければいけないところの「エーテルの世界」に属するものです。ですから、異常も即霊界との関連性があるわけです。

皆さん、超心理あるいは深層心理というものは、無茶なことを言っていると現象的には認めながら、かつ肯定しているものもありますので、何も別に心霊科学をやらなくても、異常心理あるいは超心理という学問をやったならばいいと考えるでしょう。けれども、今日の学問はあくまでも物質を対象にしているが、真の奥はすべて霊界に関するものですから、やはり霊界の法則というものを知るために、心霊科学を勉強してもらわなければいけないのです。そうしないと

深層は解明できません。